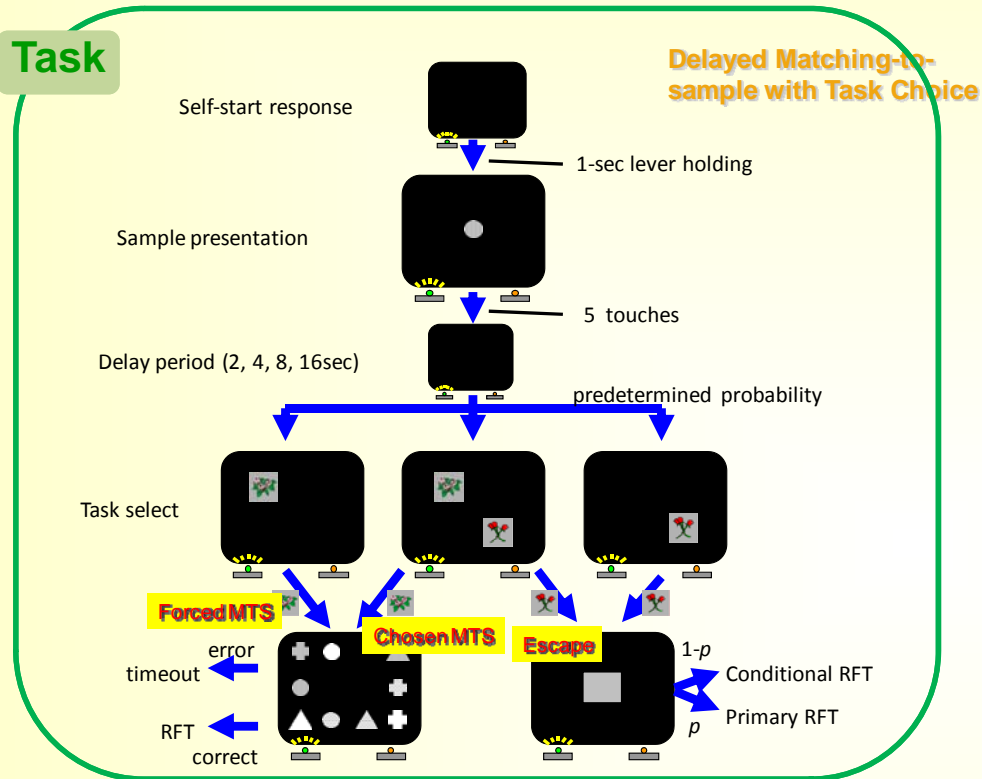


Fujita, K. (2009) Metamemory in tufted capuchin monkeys. *Animal Cognition*, 12(4), 575–585 (DOI: 10.1007/s10071-009-0217-00)



記憶テスト(遅延見本合わせ)課題で、遅延後に記憶テストに行くか回避するか選択させると、回避率(グラフ上)は、強制された記憶テストの正答率と負の相関があった。また1個体では、記憶課題を自ら選択した時には記憶テストの正答率は長い遅延で上昇した(グラフ下)。さらに、見本を提示しない試行では、回避率は上昇した。つまりフサオマキザルは自身の記憶痕跡の強さをメタ認知できることが示唆された。

